

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査リーフレットについて

牧之原市教育委員会・牧之原市菊川市学校組合教育委員会では、平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析をリーフレットにまとめ、市内小中学校、保護者に配付するとともに、市教委HPにアップした。

このリーフレットは小学 6 年生、中学 3 年生の教科テスト、学習や生活習慣についての調査結果から、牧之原の子どもたちの学力や学習状況を分析して、授業改善や家庭での指導に生かすことを目的に作成している。

本年度は、現在の中学 3 年生が小学 6 年生の時の結果と比較する記事によって子ども・学校の取組や、市の取組の成果を示した。また調査結果を分析し授業改善に活かすために「今後の取組」を具体的に示した。

記事 1 「教科テストの状況」

- ・ 教科テストの結果は点数だけに振り回されないように、本年度も「ことばでの報告」を行っている。本年度のテスト結果は、小中とも全国と比べ「ほぼ同じ」だった。（平均正答数の全国との差が 0.5 問より小さい場合を「ほぼ同じ」と示している。）
- ・ 漢字の読み書きや計算などの基礎的な力は確実に定着している。各校の授業や家庭学習の改善や、学習支援サポーター配置、放課後学習支援等の取組が効果をあげている。

しかし自分の目的に応じて習得内容を活用することには課題が見られた。
「知識を活用できる」段階まで学力を高めていく必要がある。

記事 2 「家庭教育への啓発」

- ・ 周囲の温かい支えにより自己肯定感が育まれている子どもが多い。
- ・ 地域・家庭・学校が、密接に連携して小中学生の教育に取り組んでいる。
- ・ 家庭での時間の使い方が下手であり、「自分で考えて行動できる力」を家庭に啓発して育てていくことが課題である。

記事 3 「今後の授業改善」

- ・ 学習活動の目的を明確に意識させることで、習得内容を活用することまでを視野に入れた単元構成を工夫し、「知識の意味までわかる」「知識を使える」段階まで学力を高めていく。
- ・ 授業では「話し合い」「学びあい」の場が多く設けられている。今後は「異なる考えを出し合い、新しい考えをつくる」など思考を深める学びにまで高めていく必要がある。

リーフレット完成後、市研修主任者会で、今後の指導や授業改善について説明した。また学校でも学級懇談会等で保護者に説明して配付する。

教科調査（国語）から見られる成果・課題と今後の取り組み

国語科 における 成果・課題

言葉についての基本的知識や、短時間で内容を大まかにとらえる力が伸びています。

学校や家庭での読書が充実してきた成果として、語彙が豊かになったり、漢字を正しく読み書きする力が向上したりしています。また、書かれた内容の概略を限られた時間でとらえる力も付いています。

目的をはっきりさせて読んだり、文を書いたりすることに課題があります。

筆者の言いたいことを整理しながら読み取ったり、複数の文章や資料を比較しながら読んだりすることに課題があります。

また、目的を明確に意識しながら読み手に分かりやすく書くことを苦手とする傾向が見られます。

書いた文が、自分の目的に合っているか（問いとのずれはないか、条件に合っているか）を、読み返して直してみよう。



【こんなところに課題あり】

Q & A形式で「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか？」という質問の答えを吟味し、まとめとなる最後の一文をつくる問題。

（正答例）つまり北極点より南極点の平均気温の方が低いのです。

（誤答例）北極点より南極点が低いと思います。

- ・「平均気温」「つまり」などキーワードがない。
- ・「思います」がQ&A形式にふさわしくない。

今後の 国語科の 授業改善

目的に応じて複数の本や文章を選んで読んだり、必要な部分を引用・要約して表現に利用したりする取組を進めます。

授業では、例えば「食べ物の秘密を報告しよう（家の人に自分の選んだ身近な食品について調べてわかったことを説明する）」などの課題を設定し、目的をもって読んだり、調べたりした上で、正確に表現する活動を行います。

その際には学校図書館を情報センターとして計画的に活用し、目的に応じて複数の資料を選んで読んだり、活用したりする力を育てます。読書の量だけでなく、質の向上を意識し、学年に応じた良書を積極的に紹介するとともに、目標をもって読書に向き合える環境を整備します。

「食べ物の秘密」を図鑑で調べて、家の人に報告しよう。

目次、索引、見出しを使えば早く探せるぞ。



「目的や必要に応じて書く力」を育てる授業改善を進めます。

「書くこと」の意義や楽しさを実感できるよう、「目的や必要に応じて書く力」を育てる授業を進めます。

『学習課題の例』 新1年生の保護者に学校案内パンフレットをつくる。

教室の場所だけでなく、学年の色も教えてあげよう。

学校の楽しさをわかってもらえるよう、ほくが大好きな場所を教えてください。

本当に学校のことがわかるか、友達と読み合ってみよう。



書く目的をはっきりさせ、相手意識をもって自分の考えを伝えることができるよう、左に示したように考えながら書く場面を設定します。

また、自分の考えを伝える時には、理由や根拠を明確にし、事実と意見を区別して書くことができるようにします。授業で書く時間を保障し、そうした技能が言語感覚として身に付けられるようにします。

書いたものを互いに読み合う交流の場を設定し、友達の表現のよさに気付くことで、自分が伝えたいことを整理し直したり、構成や表現を工夫したりする活動を通して、書く力を育てます。

こんな
力をつけて
きました。

現在の中学3年生は、平成25年度調査時は、小学6年生でした。子どもたちの4年前と今年の調査結果を比較してみました。



全国との平均正答数の比較

	小学6年生時（平成25年度）	中学3年生時（平成28年度）
国語 A	2 問分低い	ほぼ同じ
国語 B	0.5 問分低い	ほぼ同じ
算数・数学 A	0.5 問分低い	0.5 問分低い
算数・数学 B	0.5 問分低い	ほぼ同じ

4年前、子どもたちの平均正答数は全国平均を下回っていましたが、本年度の調査では全国と「ほぼ同じ」レベルまで伸びてきました。国語では「書く」「表現する」力の問題で無答が減るなど、限られた時間で自分の考えを書いて表現する力が大きく伸びています。

「数学の勉強は好きですか」という質問に、「はい」と答えている生徒は全国より多くなっています。授業でみんながよくわかるよう、基礎的な内容を丁寧に教えていることがその理由と考えられます。

数学の勉強は好き
（平成28年度）

67.4%

56.0%

牧之原市

全国

質問紙調査では、今年も牧之原の子どもたちのよさが明らかとなりました。しかし改善できていない課題もあります。

○「自分にはよいところがある」と答えた小学生、中学生ともに全国を上回りました。家庭、地域、学校の温かい支えを受けて「自己肯定感」が育まれています。

○学年が上がるに従って、読書習慣が身についています。

これで
やる気
スイッチ
オン！

●家で時間を休憩や娯楽に充てる割合が多く、家庭学習や手伝いの時間が全国と比べて少ない傾向が見られます。



【お家の方へ】下のチェック表で、お子様の家庭での過ごし方を、振り返ってみましょう。

- ☐ 家庭での自分の役割をもっている。
- ☐ 自分で家庭学習を始める時間を決めている。
- ☐ TVを見る、ゲーム、スマホ等をやる時間や、家庭学習の時間等について親子で話し合っている。
- ☐ 机、テーブルなど家庭学習に向かう場所は片付いている。

授業での
対話で
力をつけて
いきます。

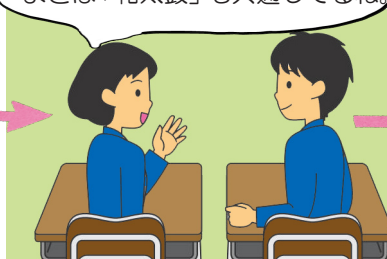
「広げ合い、深め合う対話」ができる力を育てます。

授業例：外国人との交流会での内容を決める話し合いで「折り紙」と「和太鼓」の2つの意見が出ています。

①みんなに「折り紙」なら一緒にできると言おうと思ってるんだけど・・・

②「一緒にできる」というよさは「和太鼓」も共通してるね。

③なるほど。それなら
[]
と言うよ。



③の [] では新しい考えが生まれています。どんな考えか、みなさんも予想してみてください。（答えは右下にあります。）「広げ合い、深め合う対話」をするには、自分と友達の意見との違いや共通点を聴き比べる力、目的に応じてより妥当な根拠を組み合わせる思考力などが必要です。授業ではこのような対話場面を設定して、子どもたちの力を育てていきます。

教科調査（算数・数学）から見られる成果・課題と今後の取り組み

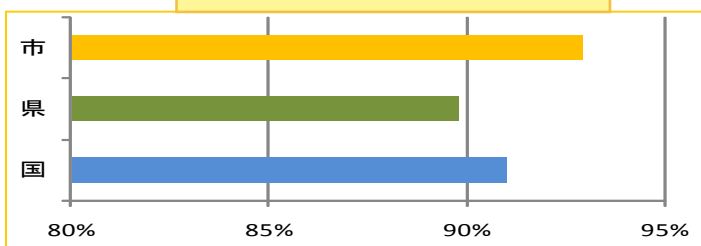
算数・数学科

における
成果・課題

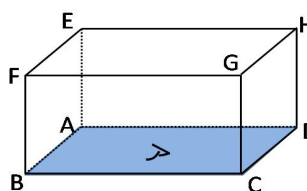
学習の積み重ねにより、基礎的・基本的な内容の理解が図られています。

A問題の中でも小学校算数では整数どうしの引き算や、分数と整数のかけ算など、基礎的な計算力を問う問題で正答率が80%を超えています。中学校数学でも、正負の数の計算（右上の問題）において、全国・県の平均を上回りました。また、図形に関する問題（右下の問題）では、立体図形における面や辺の位置関係を正しくとらえることができています。これは本市がこれまで小学校低学年から中学校まで一貫して基礎的・基本的な内容の理解を大切にし、学習を積み重ねてきた成果であると考えます。

<数学A> $-3 + (-7)$ の正答率



<算数A> アと垂直な面をすべて答えなさい。

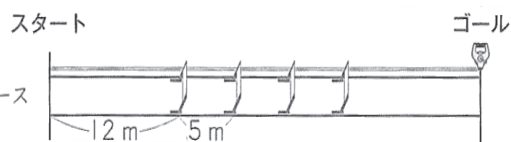


答えはいくつかありそうですね。



式の意味を正しく読み取る問題に課題が見られます。

「ことばの式」や「文字を用いた式」の意味を正しく読み取る問題に課題があります。<算数B>では、右のような40mハードル走の目標タイムを求める式が示され、それに関する問題が出題されました。調査の結果、「ハードルの数にかけた0.4秒の意味は、増えるタイムのことである」という正確さに欠ける誤答が目立ちました。関係式から「ハードル1台あたり」という重要なキーワードを読み取り、表現することが苦手であることがわかりました。<数学B>においても、同様に式の意味を読み取ることに課題が見られました。



【40mハードル走の目標タイムを求める式】

目標タイム=通常の40m走のタイム+0.4秒×ハードルの数

問題 目標タイムを求める式の0.4秒とは何を表してるか答えなさい。

答え 0.4秒はハードルの数にかけられているから、ハードル1台あたりに増えるタイムのことを表しています。

今後の
算数・数学科
の授業改善

身の回りのことがらを授業に取り入れ、考えを論理的に説明する力を伸ばしていきます。

「カレンダーの数に潜む秘密を探ろう（右の問題）」のように、身の回りのことがらを授業の中に取り入れていきます。こうした活動を通して、子どもたちが算数・数学をより身近で役立つものであると感じるとともに、数学的に考えることの楽しさや奥深さを味わうことができるよう授業改善に努めます。

（問題）

カレンダーの中で囲まれた9個の数にはどんな秘密があるだろう？

11月のカレンダー						
日	月	火	水	木	金	土
		(1)	2	(3)	4	5
6	7	8	(9)	10	11	12
13	14	(15)	16	(17)	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

四隅の4つの数を足すと、真ん中の数の4倍になることを見つけたよ。四隅の和は $1+3+15+17=36$ 、真ん中の数の4倍は $9 \times 4 = 36$ で確かに合っているでしょ。でも、これって偶然かな？

$x-8$		$x-6$
	x	
$x+6$		$x+8$



それは、文字を使った式で説明できるよ。真ん中の数を x とすると左図のようになるよ。四隅の和は、
 $(x-8) + (x-6) + (x+6) + (x+8) = 4x$
 $4x$ は、真ん中の数 x の4倍を表しているから確かにそう言えるよね。



平成28年度

牧之原の子どもたちの学力・学習のようす

牧之原市教育委員会・牧之原市菊川市学校組合教育委員会

全国 学力・学習 状況調査 とは？

子どもたちの学力や学習状況を把握し、今後の教育活動などの改善に役立てるために実施している調査です。今年度は国語・算数・数学の【知識】【活用】問題と、質問紙調査でした。

【知識】A問題 主として知識・技能を問う問題

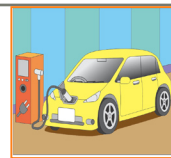
「 $\frac{2}{3} \times 0.6$ を計算しなさい。」

※ 小学6年算数の問題例です。

【活用】B問題 主として活用・応用に関する問題

(総費用) = (車両価格) + (年間あたり費) × (使用年数)
の時、10年間の総費用を求めなさい。

※ 中学3年数学の問題例です。



質問紙調査

学習意欲、生活習慣、
学習の環境等について
の意識調査



「学校の授業以外に、1日
当たりどれぐらいの時間、勉
強をしますか。」

教科の 問題例から 見える 育てたい 学力

この調査では「知識を覚える力」だけではなく「新しい考えを創る力」等も測ろうとしています。



「宇宙エレベーター」
「Space Elevator Visualization Group/
宇宙エレベーター協会」HPより

例①「必要な知識を収集して自分で課題を解決する能力」が付いているか確かめる問題



宇宙エレベーターのわからないことは図書館で調べることができるよ。

A + B = C
(新しい考え)



例②「話し合いを通して自分と友達の考えのよさを生かして、新しい考えを創りだす対話の力」が付いているか確かめる問題

学校教育では
「生涯にわたって学ぶ人」
を目標に、



これらが
「学力」

「学びに向かう力、人間性」

「思考力・判断力・表現力」

「知識・技能」

向上心



これらの資質・能力（学力）を育てることに取り組んでいます。

教科 調査の状況

小学校 (平均正答数の 全国結果との比較)	国語A (15問)	国語B (10問)	算数A (16問)	算数B (13問)
	0.5 問分高い	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ
中学校 (平均正答数の 全国結果との比較)	国語A (33問)	国語B (9問)	数学A (36問)	数学B (15問)
	ほぼ同じ	ほぼ同じ	0.5 問分低い	ほぼ同じ
質問紙調査 (「〇〇の授業は 好きか」等の回答)	小中学生の約5割が「国語が好き」、 約7割が「よくわかる」と答えています、 それぞれ全国より低めです。		小中学生とも約7割が「算数・数学 が好き」と答えていて、中学生は県や 全国を大きく上回っています。	

※ 「ほぼ同じ」とは、全国平均正答数との差が0.5問より小さいことを示します。